



女性と金融

男女平等を推進する経済的な理由

[マーティン・チハク](#) [ラトナ・サハイ](#)

2018年9月19日



ブラジルのサンパウロで、金融業界での女性の活躍を推進するイベントに出席する女性たち。ブラジルでは融資の借り手の51%が女性である (Sebastiao Mareira/Newscom)

世界中の金融制度において、預金者、融資の借り手から、銀行の取締役や規制当局関係者まで、どこを見ても女性の数は少ないままである。

直近の IMF の調査では、金融サービスの利用者、サービス提供者、当局関係者に女性が増えると、ジェンダー不平等の問題に対処する以上のメリットが生じる可能性があることがわかった。男女格差の解消を進めることで金融安定性が増し、経済成長が促進される。また、金融政策や財政政策の効力を高められる可能性もある。

今年発表された [IMFの調査結果](#) によると、2016年時点で銀行預金者と融資の借り手全体に占める女性の割合は、40%に過ぎなかった。このようなデータが出たのは初めてのことだ。全体的なデータからその内訳に目を向けると、地域や国ごとにばらつきが大きい。例えば、ブラジルでは借り手に占める女性の割合は51%なのに対し、パキスタンではたった8%だった。

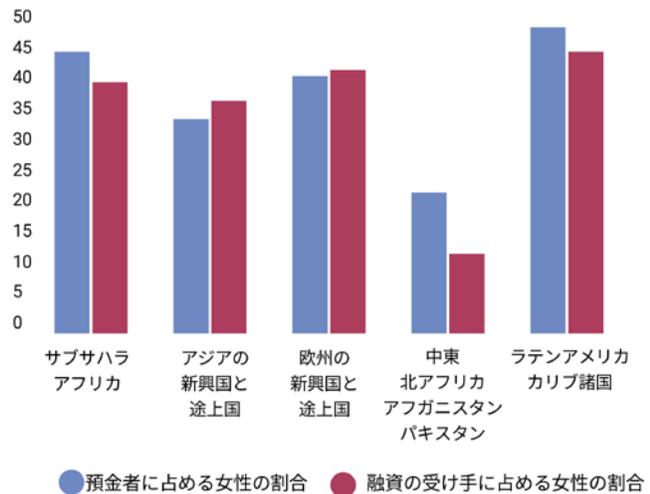
女性の金融アクセスが改善し、女性による金融サービスの活用が広がると、経済面でも社会面でもメリットがあると示す証拠がさらに出てきている。例えばケニアでは、女性店主は基本的な銀行口座開設後の方が事業投資額が大きい。またネパールでは、女性世帯主による教育支出は普通預金口座開設後の方が多かった。

このようなメリットは、金融サービスへのアクセスが向上すると経済成長が加速する理由の説明になる。金融サービスの女性利用が増えることでも、同様のメリットが得られる。包摂性の高い金融制度は、金融市場と税基盤の裾野を広げることで、財政政策や金融政策の効力を強化させることができるのだ。

女性による銀行利用

銀行預金者と融資の受け手に占める女性の割合は40%であった（2016年）

（下図の単位は%）



出所: IMFが2017年「金融アクセスサーベイ」でパイロット調査として集めた男女別データに基づく計算（2018年）



国際通貨基金

女性が金融業界で幹部を務めるとき

では、金融制度そのものはどうだろうか。銀行各社や銀行監督当局において、女性の存在は重要なのだろうか。

以前の IMF のワーキングペーパーでは、世界中で銀行役員や銀行監督当局幹部の男女比に相当な差が残っていることが示された。

金融機関の最高経営責任者（CEO）に占める女性比率は 2%に満たず、女性幹部の比率も 20%に満たないことがわかった。また銀行監督当局幹部に占める女性比率も低く、2015 年で平均 17%にとどまっていた。

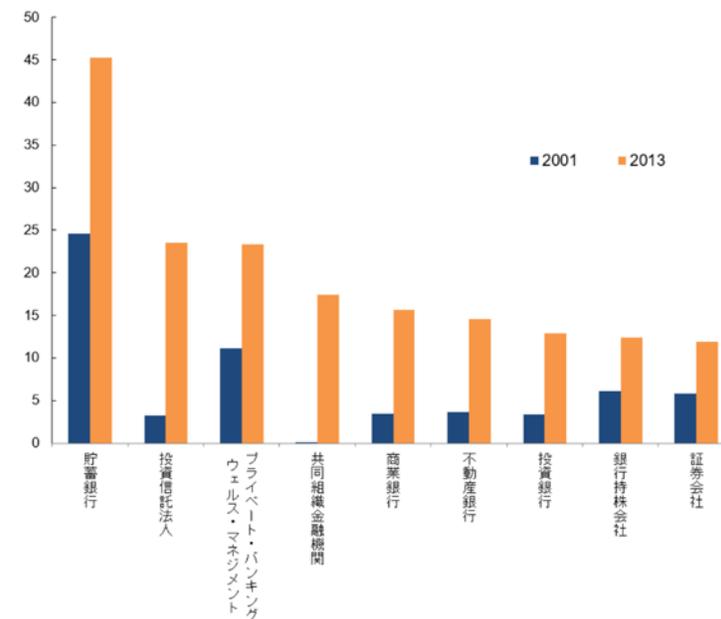
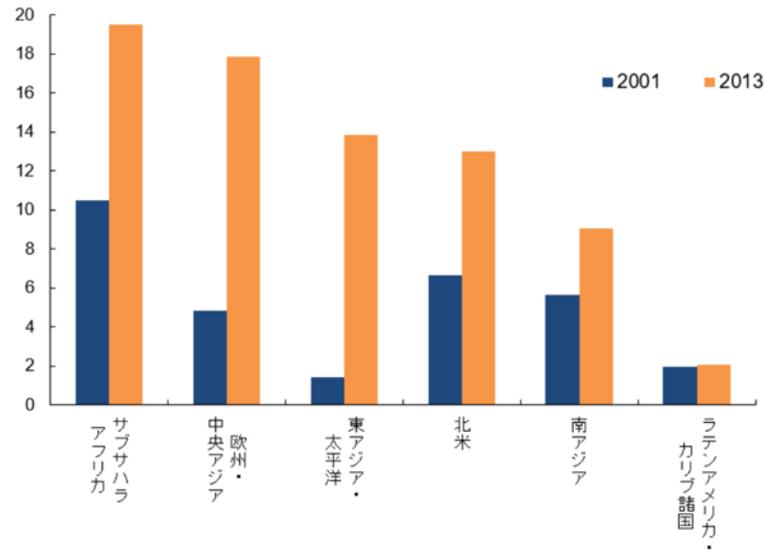
金融サービス利用者の状況と同じく、銀行幹部層の女性比率も地域差が大きいこともわかった。銀行の女性幹部比率が最も高いのはサブサハラアフリカ諸国であり、その一方で水準が最も低かったのはラテンアメリカとカリブ諸国で、先進国はその中間であった。

銀行役員のかたより

金融機関の最高経営責任者（CEO）に占める女性の割合は2%未満

女性取締役の比率も20%に満たない

(取締役員に占める女性の割合。単位は%)



出所: 銀行取締役会、著者による試算



国際通貨基金

さらに、幹部層のジェンダーギャップが銀行の安定性に影響を与えることもわかった。女性幹部比率が高い銀行ほど、資本バッファーが高く、不良債権の割合が少なく、ストレス耐性も高いことが示された。同じ関係性は銀行の安定性と銀行監督当局の女性幹部比率との間にも見出される。

このような結果につながった原因は何だろうか。銀行役員や銀行監督当局幹部の女性比率の高さが金融安定性に貢献している理由としては、次の4つが考えられる。

- 女性の方が男性よりリスク管理に優れている可能性がある
- 差別的な採用慣行の下で幹部層に登用される数少ない女性は、同様の職に就いている男性よりも資質が高いか、経験が豊富である可能性がある
- 幹部層に女性が増えると多様な視点を得られるため、より適切な意思決定につながりやすい
- 女性が上層部のポジションに関心を持ったり、幹部に女性を選んだりする組織は、そもそも経営が優れている可能性がある

IMF のペーパーとその他の文献が示すエビデンスから、金融安定性が高まっているのは、幹部層の視点に多様性があることで生じるプラス効果である可能性が最も高いことがわかった。また差別的な採用慣行があると、男性よりも資質が高いか、経験が豊富な女性が採用される傾向があることもわかってきた。

今回の IMF の調査結果は、経済成長を支え、金融安定性を向上させるために、女性の金融アクセスを改善し、金融包摂を推進するべきだという点をさらに裏付けている。

今後、このようなメリットを享受するための具体策を明確にするために、また、より多くの女性が銀行役員や銀行監督当局幹部として活躍する上で必要な条件を特定するためには、さらなる研究とより質の高いデータが必要となる。

最後に、これまでの共著者であるパパ・ンジャイ、アドルフォ・バラハス、スロボナ・ミトラ、アネット・キョーベ、ヤン・ニアン・ムーイ、セイド・レザ・ユセフィ、および IMF 調査局の金融アクセスサーベイチームの大きな貢献に謝辞を述べたい。

関連リンク:

[ハラスメントの撲滅は経済にも良い](#)

IMF Working Paper: [Banking on Women Leaders: A Case for More?](#)

[今週のグラフ: 男女平等推進のための女子教育](#)



ラトナ・サヘイは IMF 金融資本市場局の副局長。以前には IMF の調査局や財務局、アジア太平洋局、欧州局、中東中央アジア局、西半球局で勤務し、重要な調査や政策プロジェクトのリーダーを務めた他、新興市場国への訪問団を何度も率いた。金融市場の波及効果や金融危機、インフレ、経済成長、財政政策、債務の持続可能性、移行経済に関して幅広く論文を執筆し、主要学術誌に掲載されてきた。また、デリー大学やコロンビア大学、ニューヨーク大学で教鞭をとった。ニューヨーク大学で経済学博士号を取得。



マーティン・チハクは IMF 金融資本市場局のアドバイザーとして、世界資本市場の分析に関与している。また金融安定性評価とストレステスト、金融の深化・包摂、金融業界規制、金融に関する政府の役割なども担当。これらの多様なトピックについて、記事や出版物にとどまらず、IMF および世界銀行の数多くのミッションの中でもカバーしてきた。2011年から2013年にかけては、世界銀行グループで「世界金融開発報告書」作成の中心的な役割を担った。2000年から IMF で勤務する以前は、民間銀行のチーフアナリスト、大学の講師、政府の顧問などを歴任。経済学博士号、経済学と法学の修士号を取得している。